▲ちょうところころ

▲秋さがし名人になろう

▲秋の山野草展

お知らせ

平成19年度の開園は4月1日㈰です

当日、先着200家族に野草の苗をプレゼントします。

主な催し

展示

- 野草園の植物写真展
  ➡４月７日㈯～４月30日㈪
- 春の山野草展
  ➡５月３日㈭～５月６日㈰
- 岩チドリと斑入りの山野草展
  ➡５月25日㈮～５月27日㈰
- ウチョウラン展
  ➡６月29日㈮～７月１日㈰
- ボタニカルアート作品展
  ①６月12日㈫～６月24日㈰
  ②８月28日㈫～９月９日㈰
- 秋の山野草展
  ➡９月15日㈯～９月17日㈪
- きのこ写真展
  ➡10月６日㈯～10月21日㈰
- 写真コンテスト入賞作品展
  ➡11月１日㈭～11月25日㈰

観察会

- 自然観察会
  ➡４月～10月までの毎月第2、第4日曜日
- 親子ふれあい観察会
  ①4月29日㈰ ②8月5日㈰
- 早朝探鳥会
  ➡５月20日㈰
- ホタル観察会
  ➡６月下旬～７月上旬
- 四季観察会
  ①5月20日㈰ ②7月15日㈰
  ③9月24日㈰
  ④2月下旬～3月上旬

体験教室

- ガーデニング教室
  ①4月30日㈪ ②6月3日㈰
- 山野草の育て方教室
  ①5月27日㈰ ②7月1日㈰
  ③9月16日㈰
- 夏休み工作教室
  ①7月29日㈰ ②8月12日㈰

コンテスト

- 野草園の魅力を探る写真コンテスト
  ➡応募締切10月８日㈪

その他

- 春の野草園まつり
  ➡４月29日㈰～５月６日㈰
- 自然工作コーナー
  ➡７月21日㈰～８月26日㈰
- 野草園秋まつり
  ➡９月30日㈰
- 紅葉観賞ときのこ鍋
  ➡10月28日㈰

※都合により内容の一部が変更になる場合があります。

◀野草園のホームページ▶
http://www.yasouen.jp

この花を探せ!!

今回の花は見つけられるかな？

▲ヤシャビシャク（開花時期4月）

▲ヒメシャクナゲ（開花時期5月）

▲ムラサキ（開花時期6月）

7月～11月来園された幼稚園・保育園・小中学校

- 大谷幼稚園
- 山形南保育園
- 南光幼稚園
- 松波大谷幼稚園
- 南山形幼稚園
- あおぞら幼稚園
- キンダー南館保育園
- キンダー保育園
- 金井幼稚園
- 山形市立鈴川小学校
- 天童市立成生小学校
- 山形市立大郷小学校
- 山形市立宮浦小学校
- 山辺町立相模小学校
- 天童市立長岡小学校
- 山形市立東沢小学校
- 天童市立寺津小学校
- 山形大学附属小学校
- 山形市立第七中学校

●開園時間等

・開園時間
4月～5月　9：00～16：30
6月～8月　9：00～18：00
9月～11月　9：00～16：30

・休園日／毎週月曜日
ただし、月曜日が祝日・休日の場合はその翌日

・冬期間休園／12月～３月

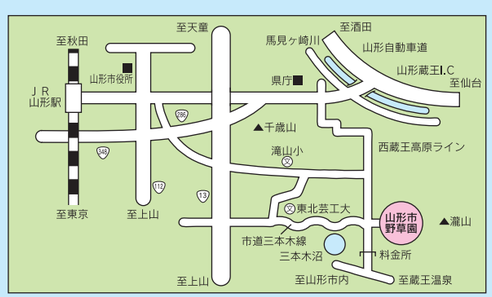
・入園料
大　人／300円
高 校 生／150円
小中学生／100円
（ただし、土曜日は小・中学生無料）
団体割引（20人以上の場合）
大　人／240円
高 校 生／120円
小中学生／ 80円

●交通案内

・JR山形駅から山形交通路線バス西蔵王・野草園行き終点下車

・山形自動車道蔵王Ｉ.Ｃより西蔵王高原ラインを蔵王温泉方面へ15分

・滝山小、芸工大方面より岩波経由で自家用車15分



野草園だより
編集・発行／山形市野草園
32号／平成19年３月発行
〒990-2406 山形市大字神尾字清水澤832番地の3
TEL 023(634)4120・FAX 023(634)4121

山形市

野草園だより

32号

シンボルマーク
原画　阿部功雲氏

キタコブシ（もくれん科）

開花4月下旬～5月上旬

本州中部以北から北海道の、主に日本海側山地に自生する落葉高木です。樹高は5～10ｍにもなります。山林内に散在し、展葉に先立って大形で白色6弁の花を開きます。野草園内では、マグノリア通り、ミズバショウの谷で見られますが、ミズバショウの谷では、甘い香りが漂うことで、視覚よりも先に嗅覚でこの花の開花を知ることができます。和名のキタコブシは北方に自生するコブシの意味で、コブシとよく似た特徴を有しています。秋には袋果が熟して裂開し、中に赤い種子を見ることができます。

平成18年度 写真コンテスト最優秀・優秀作品

最優秀賞作品

野草園の春　沖津　律さん

優秀賞作品

読　書　高橋昭博さん

優秀賞作品

楽しいお昼　小川　宏さん

小中学生の部 最優秀賞作品

出て鯉　阿部佳代さん(日大山形中学校)

審査を終えて

審査員代表 金田春雄

回を重ねて13回となりました野草園の写真コンテスト。今年は一般の部では40人から106点、小中学生の部では16人から26点の応募となり、昨年より幾分少なかったようです。

去る10月13日慎重に審査をおこない、入賞、入選が決定しました。

一般の部では、沖津律さんの「野草園の春」が最優秀となりました。林の中の湿地でようやく雪が融け始め、座禅草の芽がふくらみかけた春のめざめを残雪と立木を大胆に入れて現しており、「野草園にも春が来たよ！」と呼びかけているような斬新さと力強さを感じました。次席の優秀には、高橋昭博さんの「読書」と小川宏さんの「楽しいお昼」が入りました。「読書」は大きな木の下で読書する女性を無駄のない構図と鮮やかな緑で表しており、「楽しいお昼」は木陰で昼食をとる小学生達に、赤いナナカマドの実で季節感を添え楽しさをよく写しとっています。

小中学生の部最優秀の阿部佳代さん「出て鯉」は野草園に入ってすぐの池で、コウホネなどの水草にかくれている鯉が姿を現すのを待っている親子を、ほほえましく絵にしました。また、画題の鯉と来いをかけた点にユーモアが効いていて面白いと思いました。

全般に花、風景、スナップともに色彩、内容が豊かで、美しく楽しい作品が多くありました。

入賞者のみなさん、おめでとうございます。

平成18年11月1日

自然のたくみさ・ふしぎさ

野草園には開園当初から「○○が見たいのですが」と言って園においでになる山野草ファンの方がたくさんおいでになります。オオヤマザクラやミズバショウといったよく知られた名前をあげられる方が多いのですが、あまり有名ではない植物の名前をあげられる方も近年増えてきているように思われます。

そこで今回は、そんな隠れファンの多い植物の中から「トガクシショウマ」を取り上げ、一般的な植物との違いについて注目しながら観察してみることにしましょう。

両手を大きく開いて、

トガクシショウマは中部以北、深山の樹の下などにはえる多年生の草本です。４月下旬、まだ林床に陽射しがとどく時期、柔らかな土を押しのけてこの植物はあらわれます。まだ、芽生えたばかりのトガクショウマは、葉も小さく縮んで下を向いた状態ですが、早春の植物らしく、成長は早く、発芽まもなく開花してしまいます。この成長の様子をたとえるなら、体操で前かがみになった状態から大きく胸を張って両手を上に背伸びの運動をしているように見えます。このことが、トガクショウマの姿をしめす大きな特徴となっています。というのは、この植物の場合、３出葉を２個(枚)しか出しません。光合成をおこなうために空に向けて広げた葉があたかも両手のように見えるのです。

▲トガクシショウマ

また、トガクショウマの蕾は、ミズバショウの成長と同じように発芽直後にはあらわれ、葉の完全な展葉の前に花は開花し、その後、葉が最大にまで成長します。

はずかしそうにうつむいて咲く花

今度は花を観察してみましょう。トガクショウマは、２個の葉の中間に、長い柄をもち花径が２～３㎝程の淡紫色(ピンク色)のかわいい花を数個つけます。一見すると普通の花にしか見えませんが、本当は、変わったつくりを持っています。私たちが花弁だと思ってしまう６個のパーツは、実は花弁状に変化してしまったガク片で、他の植物で一番目立つ存在である花弁は、同じく６個はあるものの、ガク片よりはるかに小さく、ガクの内側に釣鐘状に集まってしまっています。（まるで、寒い冬に、女性の方がスカートの上にロングコートを羽織っているような形に見えるのは、まだ寒い早春に咲くための特徴なのでしょうか。）

また、花弁の内部には６個のおしべと１個のめしべがあり、自家受粉を基本とする両性化であることが見て取れます。おそらくは、この時期、昆虫を利用しての他花受粉が難しいことなどの理由により、確実な花粉の受け渡しができる自家受粉方式、とりわけ、同じめぎ科のメギと同じ内曲運動（おしべが接触など物理的刺激により、能動的に受粉をおこなうように運動する）による受粉方法を選択したのではないでしょうか。

▲トガクシショウマの花

トガクシショウマの実▶

内曲運動のように、実際に観察することが難しいものもありますが、早春のひと時、野草園のスタンプカードを片手に、コマ落としのように日々成長してゆく植物たちの様子を観察してみるのも楽しいかもしれませんよ。（伊藤）

●名前についてちょっと一言

標準和名のトガクシショウマ（別名：トガクシソウ）はその名前がしめすとおり、長野県の戸隠山で初めて採集されたことにちなんでつけられたものです。また学名はRanzania japonica T. Ito と日本で有名な本草学者小野蘭山の名前が用いられています。

植物ウォッチング 野草園に群生する植物Ⅲ

太陽の光あふれた野山を散策していると、時には、あたり一面覆い隠すように咲いている元気な花たちとの出会いに、心和む時間を過ごすことができます。今回は、そんな植物の中から、まとまって咲いているため、初めて来園された方でも容易に見つけることができる植物をとりあげ紹介したいと思います。

オゼコウホネ ▼ スイレン科

群馬県尾瀬ヶ原の沼地や山形県月山の池塘（チトウ）など、自生地が限られた植物です。根茎は太くて水底の泥の中をはっています。葉には、昆布の様な沈水葉と、水面に浮ぶ長卵形の葉の２種類があります。花は黄色で、根茎から水面上にまで伸ばした花茎の先に１個だけ咲かせます。花の中心部を覗き込むと、オゼコウホネの特徴である紅色の柱頭盤が見られます。本来は冷涼、貧栄養下の生育環境のもとで生育する植物のためか、当園のような生育環境下では旺盛な生育をとげ、ひようたん池の一角を占めるにいたっています。花期は、これも気象条件の違いによるのでしょうが、5月中旬から9月上旬までと長く、野草園の見どころの一つになっています。

キクザキイチリンソウ ▼ キンポウゲ科

山野にはえる多年生草本です。根茎が地中をはい、他の植物に先駆けて、野草園では雪解け間もない林床に、淡紫色、時として白色の花を咲かせます。この植物には花弁がなく、花弁のように思われるものは、がく片が花弁状に変化したものです。この植物の場合、日の光を浴びると平開し、天気が悪いと閉じてしまうという特徴をもっており、地域によっては「雨降り花」と呼ばれることもあります。日本名の菊咲一輪草（キクザキイチゲ）は花の形が菊の花に似ていることに由来しています。野草園では4月中旬から咲き始め、5月初旬まで見ることができます。

山形の山菜 ミツバウツギ

ミツバウツギ

山菜として親しまれている植物の中には、限られた地域でのみ食用として利用されている植物があります。近年、コシアブラなどは、全国区になりつつある山菜の一つですが、今回は山形の山菜にふさわしく、県内村山地方でも限られた地区（山形市東部など）で食用に供されるものの、他の地域では食べられることの少ない山菜、「ミツバウツギ（方言名：ナンマエ、ナンマエパ、ハシギ）」をとりあげてみました。ミツバウツギは、その名が示すとおり、三出複葉（一枚の葉が、三枚の小葉でできている）の葉をもち、ユキノシタ科のウツギに似た花をつける植物です。北は北海道から南は九州まで、日本全国の山地に自生するする落葉の小低木ですが、細い枝をたくさん出すといった特徴をもっています。山形では５月にはいると新芽を伸ばし始め、６月頃に白色の五弁の花をつけます。山菜として利用されるのは、この開花前の若芽で、茹でてそのまま和え物にしたり、おひたしや油いため、煮物や天ぷらと、色々な料理に使われます。また、さっと茹でて天日乾燥して保存することも可能です。ある高齢の方から、「人寄せごと（お祭りや法事など、来客を自宅に招いての会食）のときには、かならず（自分の家に無い時には、近所の方に借りてでも）お膳に出す一品だよ」とお聞きしたことがあります。それだけ地域の方にとってはなじみ深い食材なのでしょう。

ここ野草園のある西蔵王高原の雑木林には、多くのミツバウツギが自生し、古くから地域の方々の山菜摘みの場所となっていました。開園から２、３年は、園地内にも関わらず、はけご（山菜摘み用の腰につけるかご）を持って野草園にこられる方もおいでで、戸惑ってしまったことを覚えています。木の芽摘みとして有名なものにはサンショウやタラノキ、アケビなど色々ありますが、この地域で木の芽摘みといって連想されるのはナンマイパなのかも知れません。

（伊藤）

ハルザキヤマガラシ ▼ アブラナ科

ヨーロッパ原産の二年草で、多年草となることもあるアブラナ科の植物です。茎の高さは40㎝くらいになり、春に茎の先端部に総状花序を出して多くの花をつけます。野草園では、近年大平沼の土手から花の草原にかけて群生し、菜の花のような黄色の花は、野草園を訪れる人の目を引きます。原産地ではサラダ菜として食用にしているそうです。日本では明治時代に栽培されたといわれていて、園内で見られる個体も野生化したものが今にいたっているものなのでしょう。園内では５月中旬から６月にかけて見頃をむかえます。

ヒメオドリコソウ ▼ シソ科

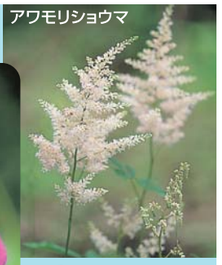
ヨーロッパ原産の帰化植物で、日本では明治時代頃から人目につくようになってきた植物です。越年草で、シソ科の植物らしく、四角い茎を持っています。日本にはもともと、同じシソ科で草丈が50㎝ほどにもなる「オドリコソウ」が分布していましたが、それに比べて草丈が10～25㎝と低く、花も小さいことからこの名が付けられました。現在では日当たりの良い休耕田などに群生する姿を良く見かけます。日向を好むヒメオドリコソウと、半日陰を好むオドリコソウとは、日向で元気に遊ぶ子どもと、日傘を差す大人の女性との違いのようにも思われます。野草園では5月下旬頃から花を見ることができます。

初夏を彩る植物〈6月の野草園〉

ニッコウキスゲ

ベニバナヤマシャクヤク

ノハナショウブ



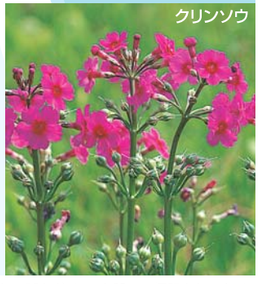
アワモリショウマ

ヒツジグサ

ヤナギトラノオ

カッコソウ

ミヤマオダマキ



クリンソウ

※お詫びと訂正：野草園だより31号におきまして、表紙「ヒゴタイ」の文字が「ヒゴダイ」に、4ページの「ガガイモ」の文字が一部「カガイモ」と誤って標記されておりました。訂正の上お詫び申し上げます。